

事務事業名	雲南市担い手育成支援室運営事業	所属部	農林振興部	所属課	農政課	
総合計画体系	政策名	(V)挑戦し活力を産みだすまち<<産業>>	所属G	担い手支援G	課長名	高田浩二
	施策名	(36)農業の振興	担当者名	小林 洋治	電話番号	0854-40-1051
	目的	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	(内線)	2412
	基本事業名	(109)担い手の育成・確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 3 0 0 2 項 目 中事業 中事業名 0 5 2 5 2 1	農業振興事業 担い手育成支援室運営事業	
目的	市内の農家	意図	農業の担い手を育成する。			

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (19 年度～ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲南市・県普及部・農業委員会・JAの関係者で担い手に対する情報の共有化と支援体制を確保するため定期的に会議を開催する。</li> <li>・担い手不在地域の解消と経営指導や農地集積による作業の効率化支援など集落営農組織への支援強化を図る。</li> <li>・新規就農者に対する情報を共有し、関係機関が連携して適切な指導を行う。</li> <li>・認定農業者の情報を共有し、関係機関が連携して適切な指導を行う。</li> </ul>

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	28年度実績(28年度に行った主な活動) ・集落営農組織からの法人化を目指す組織に対する指導・助言・支援。 ・担い手育成支援室を中心として、各集落において開催される法人化や集落営農組織の研修会に参画し、情報提供や適切なアドバイスを行った。 ・新規就農者へのフォロー活動による新規就農者を確保。	29年度計画(29年度に計画する主な活動) ・集落営農組織からの法人化を目指す組織に対する指導・助言・支援を行い、法人の設立を目指す。 ・担い手育成支援室を中心として、各集落において開催される法人化や集落営農組織の研修会に参画し、情報提供や適切なアドバイスを行う。				
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	ア 集落における集落営農研修会	回	12	7	4	5
	イ 集落営農法人数	組織	18	19	22	23
	ウ 集落営農組織	組織	78	77	85	86
	エ 担い手育成支援室会議	回	40	43	46	45

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	集落営農組織 就農研修生	ア 集落営農組織	組織	78	77	85	86
		イ 就農サポート事業対象者	人	3	3	4	4
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
雲南市の農業生産の維持と、集落環境の維持向上。 次世代の担い手としての新規就農者 認定農業者の確保	ア 集落営農法人数	組織	18	19	22	23	
	イ 認定新規就農者(自営のみ)	人	1	3	4	5	
	ウ 認定農業者	人	80	78	78	79	

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
担い手育成支援業務委託料 3,105千円 担い手育成支援職員駐在負担金 2,500千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円	4,100	4,100	5,600	
		その他	千円				
		一般財源	千円	20	20	5	5,740
		事業費計(A)	千円	4,120	4,120	5,605	5,740
		正規職員従事人数	人	1	1	1	
	延べ業務時間	時間	120	120	126		
	人件費計(B)	千円	467	470	500		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,587	4,590	6,105		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
加速する農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に新たな集落営農組織の立ち上げや、既存組織の法人化の機運が高まっている。	特になし	農地の集積や集団化を図り、次世代育成にも繋がる集落営農一の関心が高まっている。 新たな担い手の確保や育成のための支援の継続が求められている。

事務事業名	雲南市担い手育成支援室運営事業	所属部	農林振興部	所属課	農政課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-----

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	担い手育成支援室を中心に体制は整っており、成果は十分に上がる。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	高齢化が進み後継者不足で集落営農組織が停滞し、農地の荒廃につながる。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	他に類似する事業はなく、統廃合できない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	適切な事業費であり、削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	集落営農組織の都合で動くことが多く、時間の削減は難しい。集落営農組織からは、巡回や顔の見える支援をしてほしいとの声がある。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	特に費用負担を求めている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	県の補助対象となる担い手の支援は各関係機関が連携して行なっているが、年々増えている。今後細かい部分までの支援ができなくなる可能性がある。また、専門的知識も必要になり、現状をふまえて応用する力が求められている。		
B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり				
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり				
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり				

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
担い手育成業務として成果があがっており、引き続き継続が必要である。		<p>廃止・休止の場合は記入不要。          コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			